

Vol. 1 もくじ

あいさつ	表現ノート 1.....	4
第 1 課	文法.....	5
	表現ノート 2.....	8
第 2 課	文法.....	10
	表現ノート 3.....	15
第 3 課	文法.....	16
	表現ノート 4.....	22
第 4 課	文法.....	23
	表現ノート 5.....	29
第 5 課	文法.....	30
	表現ノート 6.....	34
第 6 課	文法.....	35
	表現ノート 7.....	39
第 7 課	文法.....	40
	表現ノート 8.....	45
第 8 課	文法.....	46
	表現ノート 9.....	52
第 9 課	文法.....	53
第 10 課	文法.....	57
	表現ノート 10.....	61
第 11 課	文法.....	62
	表現ノート 11.....	65
第 12 課	文法.....	67
	表現ノート 12.....	72

文法 第1課

1 XはYです (p. 41)

「私は学生です」「私の専門は日本語です」「いま十二時三十分です」といった文は、日本語ではすべて、名詞と「です」という言葉で表すことができます。

～です

学生です。

日本語です。

十二時半です。

上の3つの文では、英語の文で見られるような I、my major、it のような主語がないことに注意してください。日本語では、主語のない文というのは普通です。日本語の話者は、実際のところ、何について話しているのかが聞き手にわかるようであれば、できる限り主語を省略して話す傾向があります。

もし、話の背景や文脈などでは何について述べているかはっきりしない場合は、「は」(wa) という語を付けた主題(トピック)で文を始めることができます。この「は」(wa) は、ひらがなで書く時には「は」(ha) の文字を使いますが、これは文語の正書法の名残りです。¹

XはYです。

専攻は日本語です。

私はソラ・キムです。

山下さんは先生です。

メアリーさんはアメリカ人です。

「は」は助詞と呼ばれる語の1つです。「の」という語もそうです。「の」については、この課の後ろのほうで説明します。日本語では、名詞句の後に助詞を付けて、その名詞句がその文の他の部分とどういう関係にあるかを示します。

上の例の「学生」や「先生」のような名詞は、その英語訳である student や teacher が不定冠詞の a と一緒に用いられるのと違って、単独で用いられていることに注意してください。日本語には不定冠詞の a に相当するものはありません。また、名詞の最後に複数の s を付けるということもありません。ですから、文脈がないと、「学生です」というような文は、1人の学生についてなのか複数の学生についてなのか曖昧になります。

2 疑問文 Question Sentences (p. 42)

文の最後に「か」を付けて疑問にすることができます。

留学生です。 留学生ですか。²

上の「留学生ですか」という文は yes/no 疑問文と呼ばれます。「何」³のような疑問詞を含む疑問文もあります。この課では、「何時」「何歳」「何年生」「何番」という疑問詞を含む疑問文を使って聞いたり答えたりすることを学びます。

A : 専攻は何ですか。	B : (専攻は) <u>英語</u> です。
A : 今 <u>何時</u> ですか。	B : (今) <u>九時</u> です。
A : メアリーさんは <u>何歳</u> ですか。	B : <u>十九歳</u> です。
A : <u>何年生</u> ですか。	B : <u>二年生</u> です。
A : 電話番号は <u>何番</u> ですか。	B : <u>867-5309</u> です。

3 名詞1の名詞2 Noun1のNoun2 (p. 43)

「の」は2つの名詞をつなぐ助詞です。「さくら大学の学生」という句は、a student at Sakura University という意味を表します。2つ目の「学生」という名詞が句の中心的な概念⁴（学生であること）を示し、1つ目の名詞「さくら大学」がそれにより細かい記述（高校ではなく、大学の学生であること）を与えています。「の」を英語の Takeshi's のような所有格のように使うこともできます。下の1つ目の例がそれです。下に2つの名詞の間に「の」が現れる例をいくつか示しました。句の中心的な概念は、どれも名詞₂が表しています。そして名詞₁が制限や修飾などを表しています。



たけしさんの 電話番号
大学の 先生
日本語の 学生
日本の 大学

「名詞₁の名詞₂」という形の句は大きな名詞のように振る舞います。次の例のように、名詞が置ける場所ならどこにでも、「名詞₁の名詞₂」を置くことができます。

たけしさんの お母さん は 高校の 先生 です。

脚注

- 1 つまり、ひらがなの「は」は、2通りの発音があることになります。主題の位置では「wa」と発音しますが、他のほとんどの位置では「ha」と発音します。例外として、「こんにちは」や「こんばんは」があります。これらの語は「wa」と発音されますが、ひらがなの「は」を使って書きます。
- 2 日本語では、疑問文の最後に疑問符を書くことは一般的ではありません。
- 3 英語の **what** にあたる日本語の疑問詞には「なん」と「なに」という2通りの発音があります。「なん」は「です」の直前や「～時」のような助数詞の前で使われます。もう1つの「なに」のほうは助詞のすぐ前で使われます。「なに」は、また、国籍を問う「何人(なにじん)」のような組み合わせでも使われます。
- 4 「中心的な概念」というのは、次のような意味です。「たけしさんの電話番号」という句の中では、「電話番号」という名詞が中心的な概念です。「たけしさんの電話番号」というのは「電話番号」の1つだからです。もう1つの名詞「たけしさん」は中心的な概念ではありません。なぜなら、「たけしさんの電話番号」は「たけしさん」という人ではないからです。

表現ノート2 (p. 44)

あのう

「あのう」は、次に言おうとしていることについて何らかのためらいがあることを示します。例えば、相手が何かをしている最中にそれを遮ることを気にしたり、個人的な質問をすることで失礼に聞こえるのではないかと心配したりしている場合です。「あの」と短く発音されることもあります。

そうですか

「そうですか」は、相手が言ったことを理解したことを示す表現です。上昇調だと Is that so? (そうですか?) と疑問的な意味に、下降調だと I see (なるほど) と納得した意味になります。

数字 Numbers

多くの数字には、複数の発音があります。全体的なイメージは 380~381 ページの表を参照してください。

- 0 「ゼロ」「れい」：どちらも一般的に使われます。
- 1 「いち」ですが、「いっぶん」(一分)や「いっさい」(一歳)のように「いっ」と発音されることがあります。
- 2 いつも「に」と読みます。電話番号を言う時のように、数字を一つずつ読み上げる場合は、長音で「にい」と発音されることがあります。
- 3 いつも「さん」と読みます。「さん」の後に続く部分が、「さんぶん」ではなく「さんぶん」のように変形することがあります。
- 4 「よん」が基本ですが、四年生は「よねんせい」、四時は「よじ」となります。また、後で学びますが、いくつかの組み合わせでは「し」とも読みます(例: 四月「しがつ」)。後に続く部分が「よんぶん」のように変形することもあります。
- 5 いつも「ご」と読みます。数字を一つずつ読み上げる場合は、長音で「ごう」と発音されることがあります。
- 6 「ろく」ですが、「ろっぶん」のように「ろっ」と発音されることがあります。
- 7 「なな」が基本ですが、七時は「しちじ」となります。
- 8 「はち」ですが、たいてい「はっぶん」や「はっさい」のように「はっ」と発音されます。
- 9 「きゅう」が基本ですが、九時は「くじ」となります。
- 10 「じゅう」ですが、「じゅっぶん」「じっぶん」や「じゅっさい」「じっさい」のように「じゅっ」または「じっ」と発音されます。

せんせい

「先生」という言葉は、通常、他の人の職業を表すために使われます。「私は先生です」という表現は意味が通じますが、「先生」という言葉が「尊敬すべき師匠」という意味を持つため、少し傲慢に聞こえるかもしれません。あなた自身（または家族の一員）が教師であり、控えめな表現を使いたい場合は、代わりに「教師」という言葉を使うことができます。

さん

「さん」は名前の後に付けられる一般的な敬称です。これは、名前にも苗字にも使われます。子供は「さん」より「ちゃん」を付けて呼ばれます。男の子は「くん」と呼ばれることもあります。教授、医師、弁護士などの「高い地位の職業」の人々には、通常「さん」ではなく「先生」という敬称が使われます。「さん」や他の敬称は、自分自身については使われません。

話している相手を指す言葉 Referring to the person you are talking to

「あなた」という言葉は、日本語ではあまり使われません。代わりに、話している相手の名前に「さん」や「先生」のような敬称を付けて言います。したがって、Ms. Hart, are you Canadian? という文は次のようになります。

ハートさんは カナダじんですか。

「ハートさん、あなたは カナダ人ですか。」とは言いません。

第 13 課	文法	4
	表現ノート 1.....	10
第 14 課	文法	11
	表現ノート 2.....	16
第 15 課	文法	18
	表現ノート 3.....	21
第 16 課	文法	23
	表現ノート 4.....	30
第 17 課	文法	31
	表現ノート 5.....	36
第 18 課	文法	37
	表現ノート 6.....	42
第 19 課	文法	43
	表現ノート 7.....	48
第 20 課	文法	49
第 21 課	文法	55
	表現ノート 8.....	60
第 22 課	文法	61
	表現ノート 9.....	66
第 23 課	文法	67

文法 第13課

1 可能動詞 Potential Verbs (p. 26)

何かが「できる」とか何かを「する能力がある」、あるいは何かを「可能だ」ということを表すために可能動詞を使います。

私は日本語が話せます。

私は泳げないんです。

雨が降ったので、海に行けませんでした。

可能動詞は次の規則に従って作ります。

可能動詞 (Potential verb)

- ・ *ru* 動詞： 最後の *ru* を取って *rareru* を付ける
見る (*mi-ru*) → 見られる (*mi-rare-ru*)
- ・ *u* 動詞： 最後の *u* を取って *eru* を付ける
行く (*ik-u*) → 行ける (*ik-eru*) 作る → 作れる
話す → 話せる 泳ぐ → 泳げる
待つ → 待てる 遊ぶ → 遊べる
死ぬ → 死ねる 買う → 買える
読む → 読める
- ・ 不規則動詞：
くる → こられる する → できる

u 動詞の活用については、五十音図に沿って考えることができます。

	行	話	待	死	読	作	泳	遊	買	
否定	か	さ	た	な	ま	ら	が	ば	わ	～ない
語幹	き	し	ち	に	み	り	ぎ	び	い	～ます
肯定	く	す	つ	ぬ	む	る	ぐ	ぶ	う	=辞書形
可能	け	せ	て	ね	め	れ	げ	べ	え	～る

ru 動詞の可能動詞は、*u* 動詞の可能動詞よりも長くなります。(例えば、「見る」の可能動詞の「見られる」と「乗る」の可能動詞の「乗れる」を比べてみてください。) 実は、*ru* 動詞と不規則動詞の「来る」に関しては、「られる」の代わりに「れる」という接尾辞を使ったもっと短い別の可能動詞があります。この「ら」抜き形は、以前は標準的ではないと考えられていましたが、今ではほとんどの人がためらいなく使っています。¹

ら付きとら抜き		可能動詞	ら抜き可能動詞
<i>ru</i> 動詞：	出る	→ 出 <u>ら</u> れる	出れる
	見る	→ 見 <u>ら</u> れる	見れる
不規則動詞：	くる	→ こ <u>ら</u> れる	これる

可能動詞自体は、規則的な *ru* 動詞として活用します。下の表に可能動詞の活用パターンをまとめました。

可能動詞の活用				
例	短形		長形	
	肯定形	否定形	肯定形	否定形
[現在]	書 <u>け</u> る	書 <u>け</u> ない	書 <u>け</u> ます	書 <u>け</u> ません
[過去]	書 <u>け</u> た	書 <u>け</u> な <u>か</u> った	書 <u>け</u> ました	書 <u>け</u> な <u>か</u> りました
[テ形]	書 <u>け</u> て			

助詞「を」を取る動詞が可能動詞になった時には、冒頭の1つ目の例文のように、助詞は「を」も「が」も可能になります。「する」の可能動詞「できる」は特別で、ほとんどの場合「が」が使われます。「を」以外の助詞は、可能動詞になってもそのまま使われます。

可能文の助詞	
・動詞が「を」を取る場合：	
漢字 <u>を</u> 読む	→ 漢字 <u>が</u> 読める / 漢字 <u>を</u> 読める
・する—できる：	
仕事 <u>を</u> する	→ 仕事 <u>が</u> できる (「仕事 <u>を</u> できる」はあまり使われない)
・「を」以外の助詞を取る動詞：	
山 <u>に</u> 登る	→ 山 <u>に</u> 登れる (助詞は変化なし)

可能の意味は、動詞の辞書形+「ことができる」という、もっと複雑な構造によって表すこともできます。²

- メアリーさんはギターを弾くことができます。(比較：ギターが弾けます)
 このアパートでは犬を飼うできません。(比較：犬が飼えません)

2 ~し (p. 28)

第9課で学んだように、何かの理由を示す時は、接続助詞に「から」を用います。

日本語はおもしろいから、日本語の授業が大好きです。

1つだけでなく2つ以上理由を挙げたい場合には、「から」の代わりに「し」を使います。「し」は、普通、短形の述語に後続します。³

(理由1) し、(理由2) し、(状況)。

日本語はおもしろいし、先生はいいし、私は日本語の授業が大好きです。

A：国に帰りたいですか。

B：いいえ、日本の生活は楽しいし、いい友だちがいるし、帰りたくないです。

「し」を一回だけ使うと、何か他にも理由があるという意味合いになります。

物価が安いし、この町の生活は楽です。(= 一つ理由を挙げるとすれば、)

「し」節を別の文にして、その前に述べた状況について理由を説明するということもできます。

山下先生はいい先生です。教えるのが上手だし、親切だし。

「し」の前にナ形容詞や名詞が使われる場合には、現在形では「だ」が使われることに注意してください。イ形容詞の場合は「だ」は現れません。

イ形容詞：	おもしろいし	(×おもしろいだし)
ナ形容詞：	好きだし	(×好きし)
名詞+です：	学生だし	(×学生し)

3 ～そうです (印象 It looks like ...) (p. 29)

イ形容詞／ナ形容詞の語幹に「そうです」を付けて、そのような性質を持つように見受けられる、といった意味を表します。⁴「そうです」文は、印象をもとに推測しているという意味です。

このりんごはおいしそうです。

あしたは天気がよさそうです。

メアリーさんは元気そうでした。

「～そうです」文を作るためには、イ形容詞の場合は最後の「い」を、ナ形容詞の場合は最後の「な」を落とします。唯一の例外として「いい」というイ形容詞は、「そう」の前で「よさ」に変わります。

表現ノート 1 (p. 32)

ギターを弾く

様々な楽器の演奏を表す時は、異なる動詞が使われます。

弦楽器・鍵盤楽器の場合：

ギターを弾く *to play the guitar*

ピアノを弾く *to play the piano*

管楽器の場合：

サックスを吹く *to play the saxophone*

打楽器の場合：

ドラムをたたく *to play the drum*

一般的な楽器について述べる時は、「やる」や、可能の意味で「できる」がよく使われます。

何か楽器ができますか。 *Can you play any instruments?*

何か楽器をやりますか。 *Do you play any instruments?*

楽しく／上手に

イ形容詞とナ形容詞は、ともに副詞のように動詞を修飾することができます。イ形容詞は語尾の「い」を取り、「く」を付けます。ナ形容詞は「に」を付けます。

日本語のクラスは楽しいです。

毎日日本語を楽しく勉強しています。

ロバートさんは料理が上手です。

ロバートさんは上手に料理ができます。